



夕刊 行發日四十月二十 全日新聞 昭和九年十月十四日 第四千二百三十三號

山口彌琉球・台灣旅行談

一 十三日會講演筆記

數年來炭礦落研究と言や一部の女は又大變華やかふ特殊の仕事を持つてゐたな草花模様のものを着てゐたので今回は今年の七月下にも普通で氣にもとめぬ句から八月にかけて旅行してゐます。關釜連船で琉球、台灣方面のお話を致さうと思ひます。

の着物をつけてゐる子供箱ひかる松の梢や小鳥網張れば小鳥はそれて雲に入る 渡り鳥めがけてつるす 関籠 茂堂

潮聲視静抄帳

「小鳥網」 酒井耕影選

あかとき月うすく 小鳥網 何鳴 関籠 茂堂 小鳥網風透き切れす 小鳥網 芳月 小鳥網はるかに湖の夕 小鳥網 武門

新年文藝募集

一、短歌（新年に因る歌）（山） 一、俳句（春に因るもの） 一、童話（同）

切十二月二十日、以上何れも数に制限無し

青い餅

野村吉司

新公は便所の横の手洗鉢をこし洗つてゐます。凍るような風が、新公の手をシモヤケを寄せます。

新年文藝募集

一、短歌（新年に因る歌）（山） 一、俳句（春に因るもの） 一、童話（同）

切十二月二十日、以上何れも数に制限無し

山の怪秘

戸隠 山ノ怪秘

殺人不動堂（七） 殺人不動堂（七）

社説の今日

社説の今日

結果イバラ博士當選（同）



「おのれ、阿庭、早法、」と、みよを止めた。平七郎は、一寸、舌打ちして出て来た女は、かき云つて平七郎の両腕に取つた。見れば浴衣のやうな粗末の女が混つてゐる。『其方違ふまじはされて参る。』と、怪しからぬ。戸口を覗くやうにして、詳細の様子、仕掛を存して、岩の廊下へ降り込んだ、身居るか。『いゝよ、詳しい事は何もからさず光景も、こゝまでは解りませぬ。』と、ギラリと光る白刃に女どもは、不意に、おたすけ下さい。『おたすけ下さい。』と、いふ意外な聲。平七郎は、ビツクリと歩み止めた。

逃げたど知つた平七郎、慌て、室内へ追つて入つた。阿庭は岩の階段を轉がるやうにして駆け込んだ。ついでに駆け込んだ平七郎前後左右を眺めた、明かにかばる女聲だ。平七郎の暗に刷れた眼は、次はそばに投げ棄てられたやうなことに頭次を握つた。『抽者だ！』と、平七郎は背後からこれを掴み起し、背骨に膝頭をおかして、活を入れやうとした。平七郎は背後からこれを掴み起し、背骨に膝頭をおかして、活を入れやうとした。平七郎は背後からこれを掴み起し、背骨に膝頭をおかして、活を入れやうとした。

Advertisement for 'Mag Nets' (マグネット) and 'Daino Denki' (大野電気) with contact information for various locations.

Large advertisement for 'Matsuda Kaigi' (松田會社) featuring 'Seimentu' (セメント) and 'Cement Tiles' (セメント瓦) with pricing and contact details.

Advertisement for 'Shimizu Kenkyukai' (志水研會) and 'Shimizu Kenkyukai' (志水研會) with medical services and contact information.

Advertisement for 'Shimizu Kenkyukai' (志水研會) and 'Shimizu Kenkyukai' (志水研會) with medical services and contact information.

